

事業コード	03020505			政策コード	03	政策名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略							
事業名	秋田牛輸出拡大強化事業			施策コード	02	施策名	複合型生産構造への転換の加速化							
				指標コード	05	施策目標(指標)名	秋田牛や比内地鶏など秋田ブランドによる畜産振興							
部局名	農林水産部	課室名	畜産振興課		班名	調整・畜政・経済班		(tel)	8601806	担当課長名	畠山英男		担当者名	佐藤琢哉
評価対象事業(計画)の内容										事業年度	令和02年度 ~ 令和04年度			

1．事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
秋田牛の輸出については、新たな販路開拓や生産者の意欲向上をねらいに、(株)秋田県食肉流通公社と連携し取り組んできており、輸出货量も少しずつではあるが拡大傾向にある。しかしながら他産地との競合が激しく、今後一層のPRが必要なことや、輸出相手国の検疫条件が強化されたことから、輸出拡大に向けた取組を強化していく必要がある。

2．住民ニーズの状況
ニーズを把握した対象
☐ 受益者 ☒ 一般県民 (時期： R01 年 10 月)
ニーズの把握の方法
☐ アンケート調査 ☒ 各種委員会及び審議会 ☐ ヒアリング ☐ インターネット
☐ その他の手法 (具体的に)
ニーズの具体的内容
県産農産物の販路拡大や付加価値向上など、流通販売対策を強化するとともに、新たな需要を獲得できる輸出の拡大に取り組むこと。

把握していない場合の理由及び今後の方針

理由	
今後の方針	

3．事業目的 (どういう状態にしたいのか)

現地でのフェアやPR活動を通じて秋田牛の認知度向上が図られ、輸出货量が拡大している。

(重点施策推進方針との関係) ● 重点事業として要望 ○ その他事業として要望

4．目的達成のための方法

事業の実施主体	県、(株) 秋田県食肉流通公社
事業の対象者・団体	秋田牛生産者
達成のための手段	・タイ・台湾の現地においてレストランフェアや試食会を通じ、認知度向上を図る。 ・台湾向け食肉処理移設認定基準を満たすために必要な(株)秋田県食肉流通公社の施設整備を支援する。

比較した代替手段及び選択した手段の有効性

輸出货量の拡大には、現地での食品展示会や複数の商材を扱う商談会等へ参加し幅広くPRするよりも、取引のある輸入事業者の協力を得て、現地の飲食店・小売店でのフェアや試食会開催によるPR手法が有効である。また、他県のと畜場を介し輸出するより、県内唯一の牛のと畜場であり、牛肉のカット等に精通している(株)秋田県食肉流通公社から直接出荷するほうが効率的である。

5．事業の全体計画及び財源										単位(千円)
順位	事業内 記	左 の 説 明	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	全体(最終)計画	
01	秋田牛輸出推進事業	タイ・台湾における認知度向上と輸出货量の拡大を図るため、プロモーション試食会やレストランフェアを開催する。	5,164	5,164	5,164	0	0	0	15,492	
02	輸出向け食肉流通体制整備支援事業	台湾向け輸出認定施設基準を満たすために必要な(株)秋田県食肉流通公社の施設整備を支援する。	35,000	0	0	0	0	0	35,000	
財源内 記		左 の 説 明	40,164	5,164	5,164	0	0	0	50,492	
国 庫 補 助 金			0	0	0	0	0	0	0	
県 庫 補 助 金			0	0	0	0	0	0	0	
そ の 他		農林漁業振興臨時対策基金	40,164	5,164	0	0	0	0	45,328	
一 般 財 源			0	0	5,164	0	0	0	5,164	

6．事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
事業の期待される成果		秋田牛の認知度が向上し、輸出量が拡大する。							
指標	指標名	秋田牛輸出量						指標の種類	
	指標式	単位：t						● 成果指標 ○ 業績指標	
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
	目標a		6	7	8	10			10.0
	実績b	4.8	データ等の出典						
	東 北		(株)秋田県食肉流通公社からの聞き取り						
全 国	4.339								
把握する時期 ● 当該年度中 03 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月									
指標	指標名							指標の種類	
	指標式							○ 成果指標 ○ 業績指標	
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
	目標a								
	実績b		データ等の出典						
	東 北								
全 国									
把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月									
指標を設定することができない場合の効果の把握方法									
指標を設定することが出来ない理由									
見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)									
事業の必要性									
現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性									
国外においても、国内外の他産地との競合が激しく、一層の輸出拡大のためには、秋田牛のPRや認知度向上に向けた取組は必要である。また台湾の輸入規制強化に伴って、輸出を継続するためには、食肉処理施設整備への支援が必要である。									
住民ニーズに照らした事業の必要性									
グローバル化への対策として、富裕層の多いマーケットに打って出るとは需要拡大のために重要な取組である。また、秋田牛の販売ルート構築により他の県産品もセットで販売可能になるなど、波及効果も期待できることから、秋田牛の輸出推進に係る取組は必要である。									
事業の県関与の必要性									
☐ 法令・条例上の義務 ☐ 内部管理事務 ☐ 県でなければ実施できないもの									
☒ 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの									
秋田牛の輸出は(株)秋田県食肉流通公社と連携し実施してきたほか、生産から流通まで複数の県内の事業者、金融機関等からの協力のもと進めてきており、関係機関の調整役として関与していくことが必要である。									
政策評価委員会意見					重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定				
					○ 重点事業 ○ その他				